

丹後農業実践型学舎研修情報（9月）

- 太陽熱土壤消毒による抑草効果を確認した。マルチ巻取機、定植機、播種機など各種農業機械の使用方法を習得した。
- 国営の中心品目となる秋冬作が始まり、キャベツ、ハクサイ等の苗定植や大カブ、長ダイコンの播種作業を実習した。
- 「野菜の栽培と環境管理2」「土壌肥料1」「食品表示講習会」を受講した。
- マーケティング論フィールドワークとして、コープデイズ豊岡店、めぐみの郷和田山店を見学した。



太陽熱土壤消毒終了（透明マルチ除去）



キャベツ 苗定植



大カブ・長ダイコン 播種



ハクサイ 苗定植



マーケティング論フィールドワーク



座学：土壌肥料1

研修を通じての学舎生の所感（抜粋）

キャベツは、苗が大きくなりすぎて機械で定植できなかったので、手で植えることになった。就農してすぐは、限られた設備の中で作業するため、キャベツの定植も手で行うことになると思うが、手で植えると非常に時間がかかるため、自分が手をかけられる面積を考えて計画を立てなければと思った。

天気が悪く思いどおりに作業が進められなかった。
平打ちのまま圃場をおいておくとエロージョンが大きく進行することがよくわかった。

播種機に種がつまって落ちていないところがあった。もう少し早く気がつけば対応できたと思った。

栽培品目、面積が増えてきて収穫ができるか不安に思うが、来年は一人で収穫することになるので、自分の限界を把握するためにもしっかりと取り組みたいと思う。

ブロッコリーの定植において、天候を見ながら計画的に定植ができた。収穫までの管理をしっかりして良い物を出荷していきたい。

カブの畝が透明マルチをしていたにも関わらず草が生え始めたので、カブの葉が大きくなるまで草の管理をしなければならなかったと思った。

育苗した苗の定植と播種が終わって、その後の管理をしっかりやっていきたいと思った。収穫、調整、出荷が少し忙しくなりそうだが、みんなで協力してやっていきたい。

販売店の陳列には季節感を出すなどして、商品の購買意欲を掻き立てる演出が必要になる。生産者側からみると、季節にあった農産物を出荷することも必要になってくる。何をいつ出荷していくか計画をしっかり立てて経営的にも持続する農業をしていきたい。